

## 市長提案説明要旨

令和3年11月30日

本日ここに令和3年第4回鹿嶋市議会定例会の開会に当たり、市政運営に関する所信の一端と、当面の事業概要並びに提出いたしました議案などの説明を申し上げます。

### 《はじめに》

#### ＜新型コロナウイルス感染症の情勢＞

新型コロナウイルス感染症の国内の一日の新規陽性者数につきましては、ここ一月、100人を下回る日もあるなど、今年に入って最も少ない水準で推移しており、本市でも、9月29日の2名の感染者（累計502人目）を数えて以降、現在まで新規陽性者は出ておらず、落ち着いている状況にあります。

このような中、国では、第6波に備え、感染者数がピークだった今年の夏に比べて3割多い患者が入院できる体制の構築や軽症者から中等症向けの治療薬の確保などとともに、ワクチン接種を更に進めることとしております。また、今般、南アフリカで確認された新たな変異ウイルスとなる「オミクロン株」に対しては、監視体制の強化と水際対策をしっかりと行う中、最大限の警戒を払うものとしております。

本市におけるワクチン接種につきましては、鹿島医師会の松倉会長を始め市内医療機関や関係者の皆様方のご尽力のもと進めてまいりましたが、11月21日現在、12歳以上の対象者のうち、85.3%の方が、2回目の接種を終了しており、当初から希望されている市民の方への接種は、概ね完了したものと考えております。

その一方、接種が進んだ諸外国における再拡大にみられるよう、2回目の接種を終えた後でも、時間の経過とともに、ワクチンの有効性などが低下することが報告され、国においては、2回目接種完了から原則8か月以上経過した方を対象に、3回目の追加接種の実施が決定されました。これを受け、本市では、先の議会臨時会におきまして、追加接種に係る予算を確保し、12月から医療従事者への接種を、2月から高齢者への接種を開始する予定で、準備を進めているところであります。

本市といたしましては、新型コロナ感染症の収束に向け、更なる接種率の向上を目指し、鋭意取り組んでまいりますので、市民の皆様には引き続き「マスクの着用」「手洗い」「密の回避」「換気」といった基本的な感染症対策を徹底いただきますとともに、飲食店等の事業者の皆様におかれましても、各店舗における感染症対策等、これまで同様にご協力をお願いいたします。

今月19日に国におきまして緊急経済対策が閣議決定されました。18歳以下の子どもを育てる年収960万円未満の世帯への子ども一人当たり10万円相当の給付や住民税非課税世帯への別途、現金10万円の給付、コロナ禍で売り上げが減少した中小事業者を対象にした、最大250万円の支援などが示されております。市としましては、万全を期し、それらの給付や周知・問合せに適切に対応してまいります。

### <鹿島アントラーズFC設立30周年>

鹿島アントラーズが、この10月でクラブ創設30周年を迎えたことに祝意を表します。当初の前評判を覆し、今ではJクラブの最多の国内三大タイトル19冠、AFCチャンピオンズリーグ優勝も合わせ20冠を数え、「常勝軍団」とも言われる名門クラブとなっていることは周知のとおりであり、また、本市のまちづくりにおいても欠かせない存在となっております。

アントラーズの母体となる住友金属蹴球団が、県、地元町村、県・町のサッカー協会、地元企業群など、地域ぐるみのバックアップにより、今では語り草となっている、初代Jリーグチェアマンをして「99.9999%不可能」と言わしめたJリーグへの加盟が認められたのが、1991年2月。そして同年10月、地元5自治体43企業（当時）の出資により「株式会社鹿島アントラーズエフ・シー」として、新たな一歩が踏み出されました。

93年のJリーグ開幕後、ファーストステージを制したアントラーズの活躍と、それに呼応した地域の熱狂はご存知のとおりであります。スタジアムでは、熱狂的なサポーターとともに他のスタジアムに比べ多くの高齢の方も来場され、老若男女問わず、地域ぐるみでの熱い応援が繰り広げられました。最も小さなホームタウンのクラブが大きな都市をホームタウンとするクラブに勝利する様は、観ていて痛快であり、アントラーズは「我がまちの誇り」となり、その活躍と相まって「鹿島」の知名度も飛躍的に上昇し全国区となっていきました。この時期、官民一体のバックアップ体制や新旧住民の融合・まちの一体感の創出など、小さなまちの大きな成功事例として行政におきましても多くの視察研修を受け入れております。

アントラーズの誕生は、元々盛んであったサッカーを更に活性化させ、2002 FIFAワールドカップ、東京2020オリンピックサッカー競技の開催へも繋がるものとなりました。また、市内の中学校や高等学校が、全国大会出場の常連校になりつつあるなど、「スポーツ先進のまち」を謳い、「スポーツコンベンション」を進める本市にとりまして、まさに象徴的な存在となっております。

スタジアムにおいては、「ウェルネスプラザ」や「スポーツクリニック」を開設し、地域の健康づくりに供するほか、各種イベントの企画による地域間・世代

間交流，地域の活性化が図られております。また，教育分野におきましても，小中学校児童・生徒の一斉応援，選手の学校訪問，あるいは関係者によるキャリア教育など，様々な形でご協力いただいているところであります。

海外を含め，全国からサッカー合宿等を招致してきた2018年の「アントラーズホームタウンDMO」の設立，2020年には本市，アントラーズに前年にクラブの筆頭株主になったメルカリを加えた三者による「鹿嶋市における地方創生事業に関する包括連携協定」を締結し，市では市内DXを始めとしたスマートシティ事業の推進などを進めてきております。更に各企業におきましても，企業名からその商品に至るまで各種広告宣伝等を中心にアントラーズブランドを活用し，営業活動が展開されるなど，当初の行政・事業者・地域住民がアントラーズを支えるといった関係から，現在は地域振興を目指す中での協力関係へと変化してきております。

本市としましては，これからもアントラーズとは良きパートナーとして，共にまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

そうした中，アントラーズは，設立30年を迎えた，去る，10月1日に，今後10年のクラブの目指す姿を示す中で「新スタジアム構想」を打ち出し，2026年までに方針を決定し，10年後の建設を目指すことを発表しました。アントラーズの構想としましては，「多くの方から様々な意見を伺いながら，サッカースタジアムだけを造るのではなく，スタジアムを中心にいろいろな機能，施設を追加して，スタジアム周辺を豊かにしていくようなまちづくり」を進めたいとし，市としても目指す方向は一致しているものと考えております。新スタジアムに関しまして，いろいろと憶測が飛び交っていることは承知しておりますが，現状，具体的には何も決定しておりません。

本市としましては，これまでの係わりの中で，市内にアントラーズのホームスタジアムがあることは当然のことと考えております。今後，新スタジアムの整備について具体的な協議を進める中で，アントラーズ，そして茨城県，ほか関係者の意向をしっかりと把握し，役割分担を確認しながら，市内に新スタジアムが整備されるよう調整してまいります。

### <日鉄等関連>

本年3月の日本製鉄株式会社東日本製鉄所鹿嶋地区の高炉2基のうち1基の2025年3月を目途とする休止発表から，9ヶ月が経ちました。

同社においては，22年3月期の業績を統合後過去最高益と見込み，現在，鹿嶋地区の生産ラインも旺盛な需要環境を背景に安定生産を続けていると伺っております。その一方で，この間，関連会社や協力会社における事業整理や他地区での新規開拓などを，耳にすることもあります。直近3ヶ月の日鉄関連の相談件数

につきましては、茨城県及び本市、ハローワーク常陸鹿嶋ともに0件と、今のところ雇用等について表面化した動きは見られておりません。本市としましては、日本製鉄の動向や先に高炉を休止した他地区の状況を注視するとともに関係機関と情報を共有しながら適時必要な体制を執ってまいります。

併せまして、引き続き鹿島臨海工業地帯の活性化を目指し、後背地、未利用地を含めた鹿島港の積極的な活用とともに、洋上風力発電関連産業をはじめとしたカーボンニュートラル関連等への取り組みについて、国、県等の関係機関並びに日本製鉄等へ働きかけてまいります。

### 《事業の概要等》

続きまして、鹿嶋市のまちづくりの実績と当面の事業概要について、ご説明申し上げます。

#### (スポーツでつながるまちづくり)

東京2020オリンピック・パラリンピック・サッカー競技の「学校連携観戦プログラム」の実施から、早4ヶ月が過ぎました。

現在、市内小学校では、「アフターオリンピック事業」として、オリンピック・パラリンピックを契機に学んだこと、体験したことをさらに深めるため、それぞれが応援した国の出身者と子どもたちをオンラインにより英語を使って交流を図っております。

子どもたちからは「応援を感謝されてうれしかった」「鹿嶋のことを知ってくれてうれしかった」「習った英語が通じた」などの感想があがっております。外国の方々と感謝や感動の気持ちの共有は、ふるさと鹿嶋への愛着と誇りを持つことにも繋がるものと考えております。今後もオリンピック応援事業を一過性のものとすることなく継続性を持った事業展開を図ってまいります。

#### (未来を創るひとづくり・まちづくり)

先般、小学校6年生の国語、算数、中学校3年生の国語、数学を対象科目にした「全国学力・学習状況調査」、並びにICT活用状況調査の結果が公表されました。

小学校においては、国語、算数とも全国、県平均をも上回り、中学校国語、数学は県平均と同等の結果となりました。一方、ICT機器の活用に関しましては、週1回以上使用すると答えた割合では、国36%、県41%に対し本市児童生徒は66%となり、全体としては本市が取り組む教育事業は有効に作用しているものと認識しております。

また、学校の授業ではできない様々な体験活動を通して、ふとした疑問の解決やチャレンジに取り組み、さらにもっと知りたいという好奇心を育む「かしまこども大学」につきましては、新型コロナの影響により予定よりスタートが遅れたものの

10月に開校しました。現在まで、5回の授業を終了し、参加した児童からは、今までにない体験や新しい発見など、楽しく学ぶことができた喜びが寄せられています。

本市で学ぶ児童・生徒が輝く未来を拓けるよう、今後も、学校内外での事業の充実を図ってまいります。

来年1月9日には、カシマススポーツセンターメインアリーナを会場に、640名余りが対象となる令和4年鹿嶋市成人式を開催いたします。民法の改正に伴い成人年齢が18歳に引き下げられることから、「鹿嶋市成人式」という名称を使った式典としては最後の開催となります。新型コロナウイルス感染症予防対策を講じながら本番に向け実行委員会の皆さまとしっかり準備を進めてまいります。

### **(地域資源を生かしたまちづくり)**

近年のサイクリングブームを背景に、自転車をそのまま電車へ積み込めるサイクルトレインが各地で運行されています。鹿島神宮駅へは令和2年11月からこれまでに7回運行され、380人余りのサイクリング愛好者が首都圏より鹿嶋を訪れています。

本年9月以降は毎月2回ずつ運行され、11月27日、28日には初めて大洗鹿島線においても運行され23人の利用がありました。

利用者が増加傾向にあることから、JR東日本においても運行本数を増やしていく計画と伺っております。市におきましては、JR東日本や観光協会とともにサイクルトレイン利用者へのおもてなし・案内等を実施し、市内回遊をいただく中で、飲食店等の活性化につなげてまいります。

JR東日本の特別列車トランスイート「四季島」は、平成30年元日に初めて鹿島神宮駅へ乗り入れされて以来、これまで7回の運行で延べ230人ほどが本市を訪れています。近年豪華列車の需要は高まっており、チケットは発売と同時に売り切れるといった人気であるとのこと。この「四季島」が本年12月から来年3月にかけて15回運行されることになりました。定員34人の特別列車ですが、この方たちがリピーターとなって再び鹿嶋の地を訪れていただけるよう、本市をPRしてまいります。

### **(市民と共に創るまちづくり)**

市内各地区公民館では、10月から11月にかけて公民館まつりやウォーキングイベント、あるいは防災訓練などの各種地域づくり活動が実施されています。コロナ禍にありますが、様々な工夫をこらして、準備から開催運営まで、地域の皆様が協力して取り組み、交流を深めたことは、地域の絆づくりそのものでも感じております。

また、各地区公民館を会場に、市民活動と公民館をテーマに「地域活動学習会」が開催されております。この取り組みは、昨年度地区別に作成されたコミュニティプランを活用し、市民組織のあり方や様々な市民活動のネットワーク化、公民館の役割等について研究・協議し、豊かで住み良いまちづくりを推進していこうとするものです。本市の「共創のまちづくり」がより一層推進されるものと大いに期待しているところであります。

以上、まちづくりの実績と当面の事業概要についてご説明申し上げます。

### 《提出議案等》

次に、提出しました議案についてご説明申し上げます。

提出議案は、予算関係議案が4件、条例関係議案が6件、人事関係議案が3件、指定管理関係議案が6件、その他の議案2件の合わせて21件であります。

予算関係議案は、令和3年度の一般会計及び特別会計などの補正予算であります。一般会計補正予算については、自立支援給付事業や一般廃棄物広域処理事業、中学校大規模改造事業などの補正であります。

後期高齢者医療特別会計補正予算については、後期高齢者医療広域連合納付金の補正であります。

介護保険特別会計補正予算については、保険給付費や地域支援事業費などの補正であります。

下水道事業会計補正予算については、工事に伴う営業費用並びに受益者負担金の補正であります。

条例関係議案は、全て改正するものであり、「鹿嶋市行政手続等における情報通信の技術の利用に関する条例の一部を改正する条例」などであります。

人事関係議案は、「鹿嶋市固定資産評価審査委員会委員」の選任についてであります。

指定管理関係議案は、「大野北いきいきふれあいプラザ」などの指定管理者の指定についてであります。

その他の議案は、鹿島地方事務組合規約の変更並びに債権の放棄についてであります。

私の説明は以上で終わりますが、予算以外の議案については、担当の総務部長から補足説明をいたします。

お手元の議案書によりご審議のうえ、適切な議決を賜りますようお願いいたします。